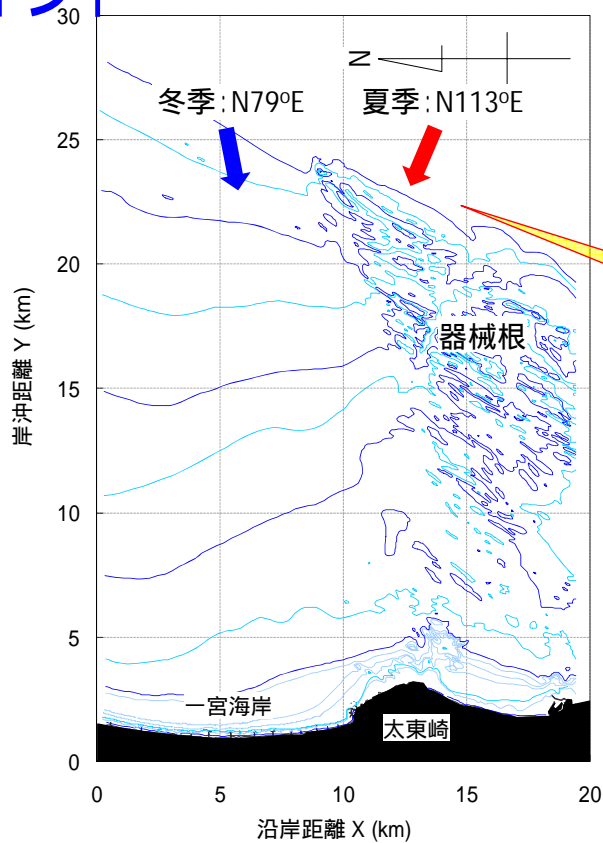


一宮海岸の波について

1. 検討のポイント
2. 夏季波浪作用
3. 冬季波浪作用
4. サーフィンに適した波とは？
5. サーフィンに適した波の分布

1

1. 検討のポイント

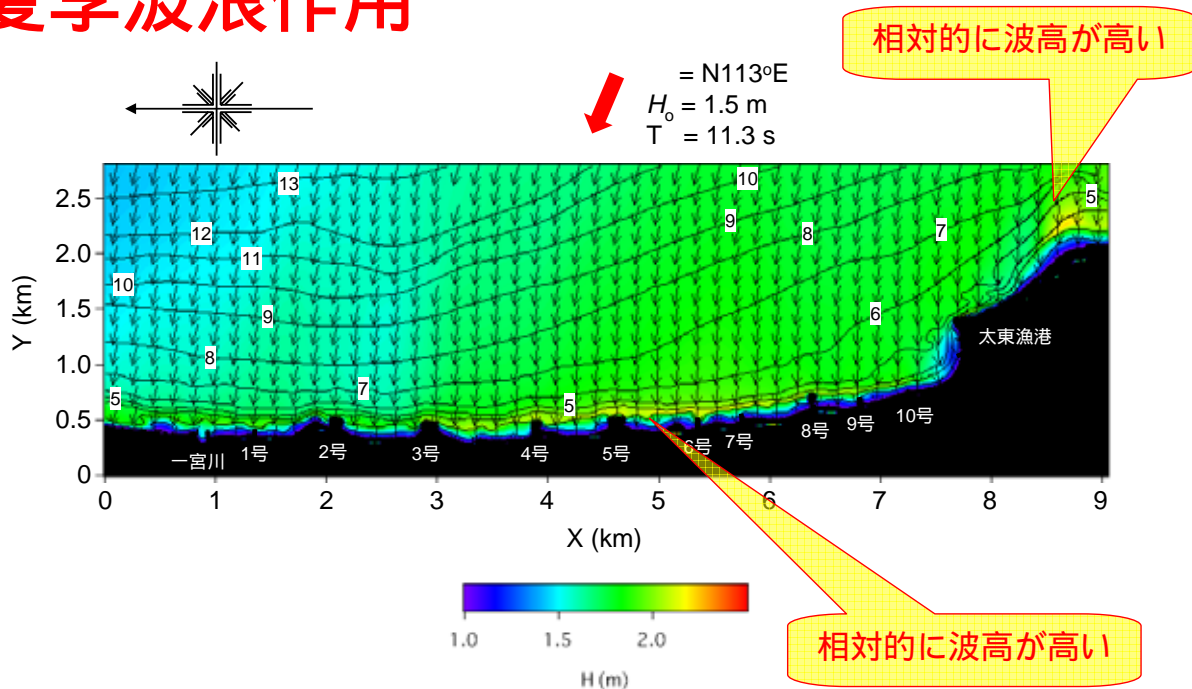


夏季に器械根の影響の可能性

太東崎沖の深浅図

2

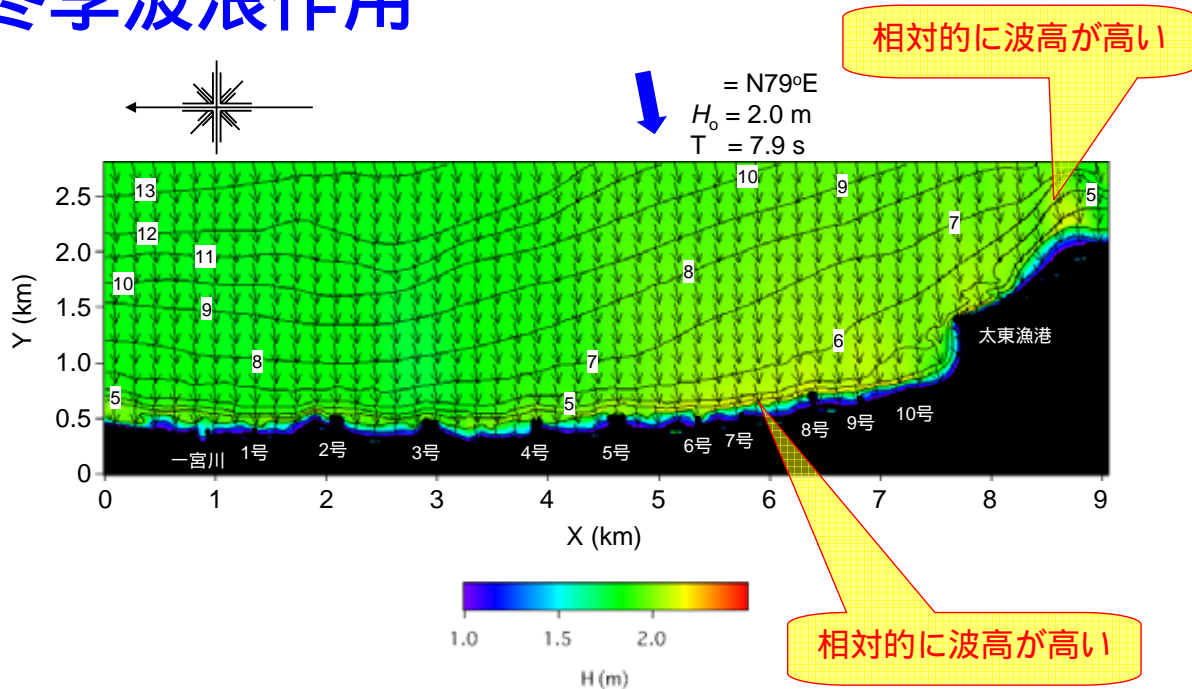
2. 夏季波浪作用



3

夏季波浪作用時の波高と波向分布

3. 冬季波浪作用



4

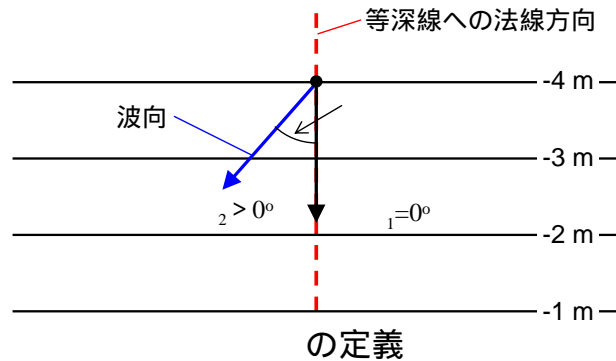
冬季波浪作用時の波高と波向分布

4.サーフィンに適した波とは？

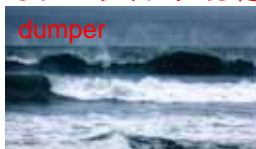


サーフィンは、その原理から考えて一度に崩れる波でなく碎波が横に走りながら進む波が都合がよい。

この点を考慮して、平行等深線海岸に波が入射する場合、ある地点の等深線の法線方向と、そこでの波の入射角の差を $\Delta\alpha$ と定義する



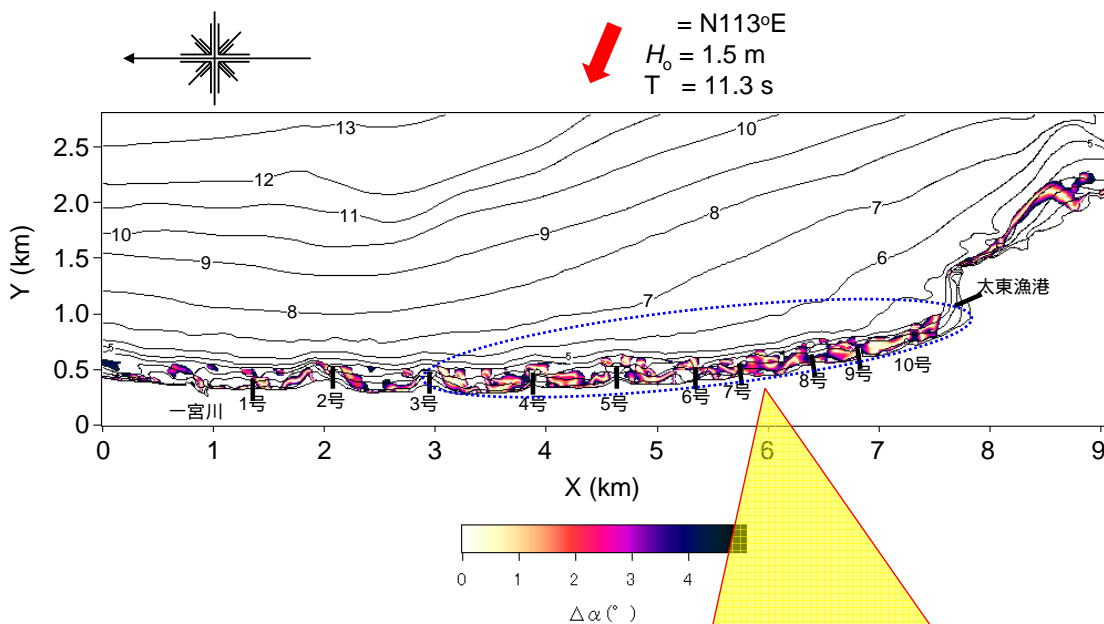
$\Delta\alpha = 0^\circ$: 碎波帯では波は同時に碎けるのでサーフィンには適さない。



$\Delta\alpha$ が 0° 以上 : 碎波が横に走るためサーフィンに適する。

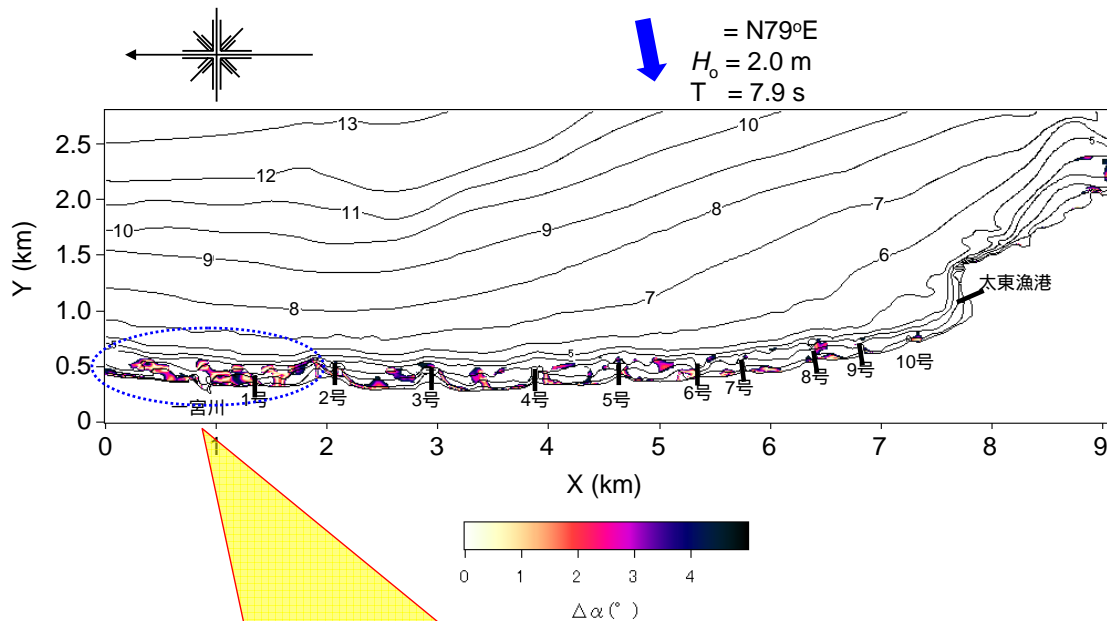


5.サーフィンに適した波($\Delta\alpha$)の分布(夏季)



全域でサーフィンに都合のよい波が立ち、とくに3号堤より南側でサーフィンに適した波の条件となる

5.サーフィンに適した波()の分布(冬季)



一宮川河口付近で一部サーフィンに都合のよい波条件となる

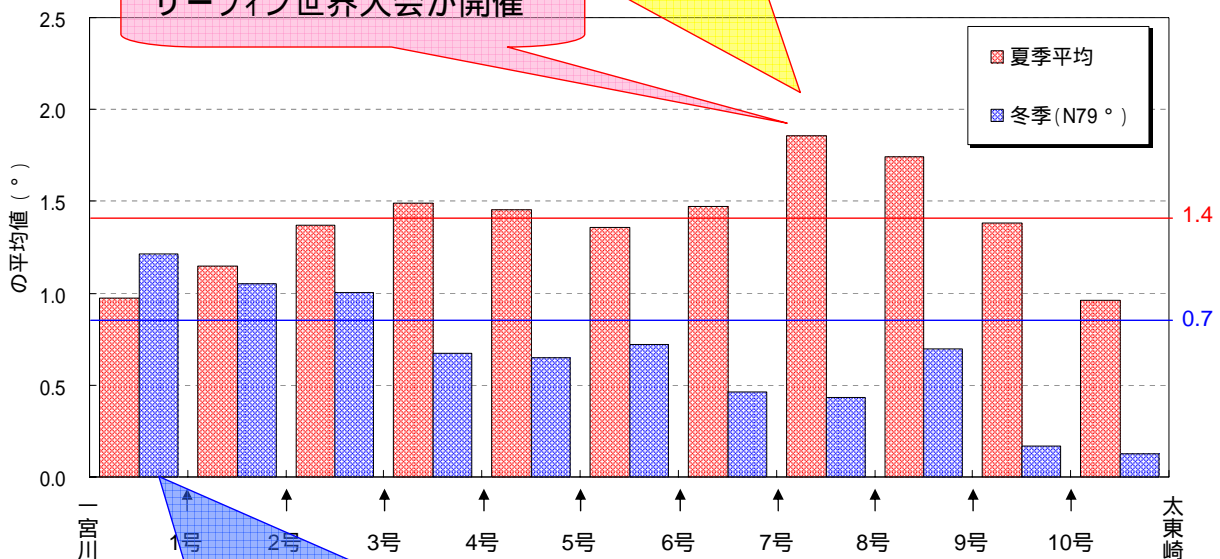
等深線に対する法線と波向との差の絶対値 (冬季)

7

5.サーフィンに適した波()の分布

夏季:一宮川河口から7~8号堤間のピークまで徐々に値が大きい。その南側では太東崎に向けて減少する。また絶対値が広範囲で大きい。

サーフィン世界大会が開催



冬季:一宮川河口でのピークから太東崎に向けて徐々に値が小さくなる。

各ヘッドランド間の の比較

8